

北郷小と緑ヶ丘小の五年生が田植え体験学習

農村体験で広がる目黒区と角田市の小学生の交流

田植え体験編



五月十一日から十三日までの三日間、東京都目黒区の緑ヶ丘小学校（稲田正克校長）の五年生六十二名が角田市を訪れ、北郷小学校（渡邊美代子校長）五年生と農業体験学習を行いました。

角田市と目黒区は先祖が縁で相互援助協定を結ぶ友好都市で、緑ヶ丘小学校が角田市で農業体験学習を行うのは今年で六年目、両校ともに恒例の行事になりました。

田植えは北郷小学校の南側に



設けられた、三〇アールの「総合学習田」で行われ、JAみやぎ仙南角田地区青年部の指導で、今年は「ひとめぼれ」を植えました。
田植えの日は天候が思わしくなく、雨が降らないか心配でしたが、幸い田植えをしている間は雨も遠慮したようで、無事に終わることができました。子供たちは、寒いながらも、田植えを楽しんでいました。
田植えが終わったあとは、雨が降り始めたので、北郷小学校の体育館に移動して、緑ヶ丘小学校の子供たちの手作りおにぎりと、地元のボランティアアサークル「たんぼぼ」の皆さんが作ったトン汁をいただきました。
その日の夜は、緑ヶ丘小学校の宿泊先の農村環境改善センターで、両校で「早苗祭り」を行いました。アトラクションとして「君萱神楽」も鑑賞し、子供たちは、お餅を食べながら、交流を深めました。



五月十二日から十四日までの三日間、東京都目黒区の月光原小学校（島田昇校長）の五年生五十六名が、角田を訪れ、西根小学校（蓬田義廣校長）の五年生と一緒に、西根地区子ども会育成会（井上眞弘会長）の指導で、一五アールの水田を「総合学習田」として農業体験学習を行いました。
月光原小学校が角田市で農業体験を行うのは今年で二年目となります。
田植えは十二日に行われ、あいにくの雨となりましたが、子供たちは寒さに震えながらも、苗を一つ一つ手で植えていました。

西根小では月光原小五年生と体験交流



西根小と月光原小の体験交流は、農村体験と学校間の交流が目的で、今回の交流の目玉として、オリエンテーリングが行われ、子供たちは、グループごとに、西根地区内に設けられたチェックポイントで、「サワガニを見つけなさい」「石切をしなさい」などの課題を解決しつつ、高蔵寺やせんだんの木など、西根の歴史と文化を学び、豊かな自然に親しんでいました。
また、十三日から十四日にかけて、月光原小の子供たちは、西根小の子供たちの家に数名ずつホームステイしました。
子供たちは一晩一緒にすごし、交流を深められたようで、最終日のお別れ会では、秋の稲刈りでまた会うことを約束していました。